医療法人社団公佑会広報誌

さくら

No.69 令和４年２月発行

宮崎県えびの市大字大河平 4327-37
TEL 0984−33−2127
URL http://www.kyk.or.jp

暦の上では春ですが、まだまだ風が冷たく寒い日が続いています。

公佑会では、年末から年始にかけて各施設で様々な行事がありました。

年末には、クリスマス忘年会や餅つき等が行われました。忘年会では、鍋の振る舞いや職員の余興もあり、笑いの絶えない会となり楽しい時間を過ごす事ができました。また、少しでも正月の雰囲気を味わっていただこうと、お飾りや門松を準備し、元日には正月遊びを楽しんでいただきました。

これからも、様々な活動を通して利用者や家族の皆さんが笑顔で元気に過ごせる様に、職員一同、関わりの時間を大切に取り組んでいきたいと思います。

今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

介護保険制度の矛盾

医療法人社団公佑会　理事長　丹　光明

私は平成6年12月に交通事故にあい、三か月ほど入院した経験があります。この時、つらかった事は排泄とリハビリでした。特に排便は大変でした。恥骨・坐骨骨折と左前十字靭帯断裂があり、身体を動かすたびに骨盤がギシギシと音を立て激痛が走ります。また、ベッドの上で寝たまま用を足すということもストレスでした。やっと便器に座れた時には、軽く感動すら覚えたものです。

次に苦痛だったのは機能訓練です。約二か月間のベッド上安静で筋力が低下し、身体機能訓練が必要となりました。しかし、これが苦痛でした。入院して数日で痛みが治まると病室に大好きなテレビや趣味だったパソコンを持ち込み、一日中退屈することのない生活を送っていました。そんな時に阪神・淡路大震災が発生し、早朝からテレビを見ていて衝撃を受け、連日深夜まで刻々と移り変わる状況に愕然としました。また、オウム真理教が世の中を騒がせており、テレビで連日報道されていましたので、リハビリの事などを考える暇はなかったのです。しかし、担当の理学療法士は、毎日病室に来てリハビリの必要性を説いてきます。言っている事は分かりますが、世の中ではもっと大変な事が連日起こっていたのです。それでも嫌々機能訓練を開始すると、その辛い事と言ったらありません。加重しての膝の曲げ伸ばしや重い自転車こぎなどをやらされます。やっと終わったと思ったら、彼は笑顔で、「あと10分、頑張りましょうか」等と言うのです。私は毎回グダグダと文句を言うのですが、その度に彼は脅したり、なだめたり、共感したりして機能訓練を続けました。やっと二か月ほどで最低限の筋力も付き、車椅子を卒業することができました。

そんな彼はさくら苑の最初の理学療法士です。老人保健施設の在り方について多くを語らい、いろいろな知識も与えてくれました。今は退職しましたが、彼は公私共に恩人です。あのまま、便器に座れることで満足し、一日中テレビを見続けていて、辛いことを避けていたら今の私はありません。少しのウソも含めて、なんだかんだと関わり続けてくれ、訓練を継続してくれた事が大切だったのです。その経験から、公佑会では創設当初より「介護はリハビリテーション」という考え方を基本にしてきました。リハビリテーションとは身体機能訓練だけではなく、社会復帰も含めた日常生活動作（ＡＤＬ）や生活の質（ＱＯＬ）等の改善や向上を目指すものです。生活環境の改善や生活意欲の向上、社会性の維持なども含まれます。たとえ寝たきりであっても同様です。

現在、高齢者介護は介護保険制度を中心に行われています。しかし、数年前から制度の矛盾が露呈してきました。その矛盾とは、要介護度が上がると報酬額も増えるという事です。一般的には、客に利益があると店に報酬を支払います。例えば外食をすると調理せずに美味しいものが食べられたという利益に対して料金を支払います。不味くて高い料理だったら二度と行かないでしょう。おいしくなくても安ければ話は別ですが。

要介護度が上がる事は本人にとって利益でしょうか。普通は、要介護度が上がれば報酬は下がるのが当然でしょう。この矛盾は介護保険制度創設時から指摘されており、成功報酬の議論がありました。しかし、成功報酬を付けると改善の見込みのない要介護者を引き受けてくれる施設が無くなり、利用者の選別が行われるという理由で立ち切れとなりました。それなら、介護支援専門員の権限を強めて、介護支援専門員に成功報酬を支払えば解決すると思うのですが、何の対策も取られていません。

介護保険制度は民間企業の参入を認めていますが、民間企業の目的は利益の追求です。増収のためには、顧客には親切で優しく、希望を優先して対応します。しかし、介護の世界では、こういった対応をとるとＱＯＬは上がるでしょうが、ＡＤＬは確実に低下し要介護度は悪化します。中には、ＱＯＬの改善のみを希望される要介護者もいるかもしれませんが、ＡＤＬが低下してから後悔しても遅いのです。保険料が年々上がり続けている現状で、要介護度の上昇は制度の根幹を揺るがす問題です。近年、民間の介護施設が増え、介護認定審査会で見る限り民間施設における要介護度の悪化は気になります。

新型コロナウィルスが変異を繰り返し、世界中に蔓延しています。しかし、現在取られ続けている対策には矛盾があり、時間だけが経って行きます。介護施設では入所者への面会制限を行っており、家族に直接会えなくなった高齢者の精神的ストレスは無視できない問題です。そして、通所サービスの利用制限は、在宅への閉じこもり状態となり、ＡＤＬの低下や社会性の喪失などが懸念され、影響は想像よりも大きいのです。このような環境や矛盾のある介護保険制度の下では、要介護度は確実に悪化し続けると予想されます。

さくら苑デイケア活動紹介

デイケアでは、創作活動でステンシル書道を行いました。

ステンシル書道とは、花柄の型枠とスポンジを使い、好きな色の絵具でポンポンポンとスタンプし模様をつけ、空きスペースに、言葉を一筆入れてもらうものです。

絵手紙となると難しいですが、ステンシルは好きな色でスタンプを押すだけの作業であるため、比較的短い日数で完成！

一筆については、「今、私が思ってる事で良いの？」「何て書こうか。」「練習してから書きたいねぇ。」など和気藹々と筆で試し書きをされていましたが、清書となると会話も止まり、真剣な表情で書き上げていました。書き終えると、花柄模様のステンシルと書道の風合いがとても良く合い、素敵な作品が出来上がりました。

利用者からも、「絵だけでも良いのが出来たと思ったけど、文字を入れるとなお良いね。」と、大変好評でした。

完成品は、11月13・14日に行われた、えびの市の産業文化祭に展示し、展示品に色を添えました。

さくら苑新館ショートステイ活動紹介

さくら新館ショートステイでは、1月10日に小正月の風習でもある『めの餅作り』を行いました。

テーブル上に準備を進めていると、「今から何を作るの？」と皆さん興味津々。めの餅を作ることを伝えると「楽しみだね。」「どういうのが出来るかな。」と笑顔で話をされていました。

まずは、色とりどりの餅を作り、利用者の皆さんにその餅をハサミで切ってもらいます。餅を切る時には「大丈夫かなぁ、上手にできているかなぁ。」と心配されながらも丁寧に切られていました。次に枝に餅を付ける作業ですが、作業中は「どこにさせばいいかなぁ。」「もっと餅をつけようか。」と真剣に話をされながら作業を進められていました。完成しための餅を見て、「良いのが出来たね。」「綺麗だよ。」と言われ、ホールや玄関に飾られていく様に、大変喜ばれていました。

今後も地域ならではの行事を取り入れながら、皆さんが楽しみを持って活動して頂けるような企画を実施していきたいと思います。

さくら苑入所活動紹介

さくら苑の入所では、「花かなんか植えたいね。」と利用者さんからの要望もあり、長らく使ってなかったプランターを引っ張り出し、花植えの準備を行いました。

加水しながら古い根っこをとったり、肥料を入れたりしながら、「土いじりは本業やって。」「家では１００鉢くらい育てていた。」と自慢話合戦もあり、とても賑やかな準備となりました。

「何の花を植えようか？」とパソコンで花の写真を見ながら色々と一緒に考え、「ビオラとナデシコ、後は、あんたにまかすっで。」とのことで、今回は『ビオラ・ナデシコ・パンジー』の３種類に決定！

「綺麗だねー。」「沢山咲くといいね。」と話をしながら、皆さん手慣れたものでパパっと植えて下さいました。最後に水やりと足りない土や追肥をして完成。

利用者さんと毎日のお世話を頑張りながら、プランターいっぱいに花を咲かせてくれるのを、楽しみにしたいと思います。また、これからも皆さんが、楽しみを持って、毎日を過ごせるような活動が出来るように、色々と計画していきたいと思います。

さくらの杜活動紹介

1面で簡単に紹介しましたが、さくらの杜は12月の誕生会も兼ね、12月23日にクリスマス忘年会を行いました。

忘年会の楽しみといえば何といっても余興!!今年は『麦畑』の曲に合わせ、職員が踊りを披露しました。「久しぶりにこんなに笑った。」「面白かったよ～。」と皆さん音楽に合わせ唄を口ずさんだり、手踊りをしたり、とても楽しまれていました。誕生会では2名の方をお祝いし、記念品の写真をとても喜ばれ、早速お部屋に飾られる姿も。昼食には寄せ鍋が提供され、普段、少食の方も「久しぶりに食べたら美味しかった。」「みんなで食べるからいつも以上に美味しい。」と皆さん笑顔でお話されていました。そして、3時のおやつはクリスマスケーキ！「1個じゃ足らんがよ。」「もう一個持ってきっくいやん。」と声が聞かれていました。

コロナ禍で、外出や面会にも制限がかかり家族とも思うように会えない中、今後も楽しかった、面白かったと思っていただける行事を計画していきたいと思います。

京町デイサービス活動紹介

前回のさくら苑広報誌第68号で、『全国ふれあい短歌大会』に応募された利用者さんの短歌を紹介しました。年末に入選者への賞状と、応募者全員の短歌が掲載された本が開催元から届きました。

レクリエーションの時に、作品の紹介と表彰式を行い、京町デイサービスからも、その利用者さんの作品を色紙に書きプレゼントしました。本も皆さんが余暇時間に読まれながら、「こんな考えもあるのね。」「この作品は面白い。」など全国の方の短歌に、職員や利用者さん同士話もはずんでいました。

利用者さんにとって、応募した短歌が本に掲載されたことが大変嬉しかったようです。「来年の為にまた短歌を考えないと。」「来年は私も賞状をもらいたい。」と意欲的な発言が聞かれています。

今回、京町デイサービスから8名の方が応募しましたが、次回は応募したいという利用者さんも多く、次回の応募のために、話題探しが始まっている利用者さんもいらっしゃいます。また沢山の応募が出来ることが楽しみです。

さくら苑デイケアでも数名応募され、入選された方がいらっしゃいました。

入選された皆さん、本当におめでとうございます。

令和3年度
『心豊かに歌う全国ふれあい短歌大会』
入賞おめでとうございます

祝！成人

現在、さくら苑入所の介護職として働いている、井上佑馬さんが成人を迎えました。本人より抱負の言葉を頂いたので紹介します。

介護福祉士　井上　佑馬

成人を迎え、晴れて私も大人の仲間入りをしました。これまで支えて下さった、家族や友達、周囲の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

8年前、大好きだった祖父が亡くなり、何か恩返しをしたく介護福祉士になろうと決意し、2年前に資格取得の夢を叶える事ができました。

介護の仕事に携わり、学校では学べなかった知識や技術を学ぶことができ、自分自身のスキルアップを感じています。

これから、成人としての自覚を持ち、1つ1つの行動に責任がついてくる為、落ち着いた行動を心掛け、社会人として一生懸命頑張ります。また、目標として、今までに挑戦しなかった事を色々挑戦していきたいです。美味しくお酒が飲めるようにもなりたいです。

編集後記

皆さん、年末、年始はどのようにお過ごしだったでしょうか。

元日は、寒さが増しましたが、天気に恵まれ、いい年を迎えられたのではないかと思います。

今回は、各施設の年末年始の状況を中心に広報誌を作成しました。利用者の皆さんも、楽しんでいただけだようで嬉しく思います。

今年も皆さんに、少しでも施設での状況を知っていただくために、色々と工夫しながら広報誌を作成していく予定です。また、合わせて、ホームページのブログなども見て戴ければ有り難いと思います。

URL http://www.kyk.or.jp
※公佑会ホームページでは最新情報を公開しています。是非ご活用ください。